

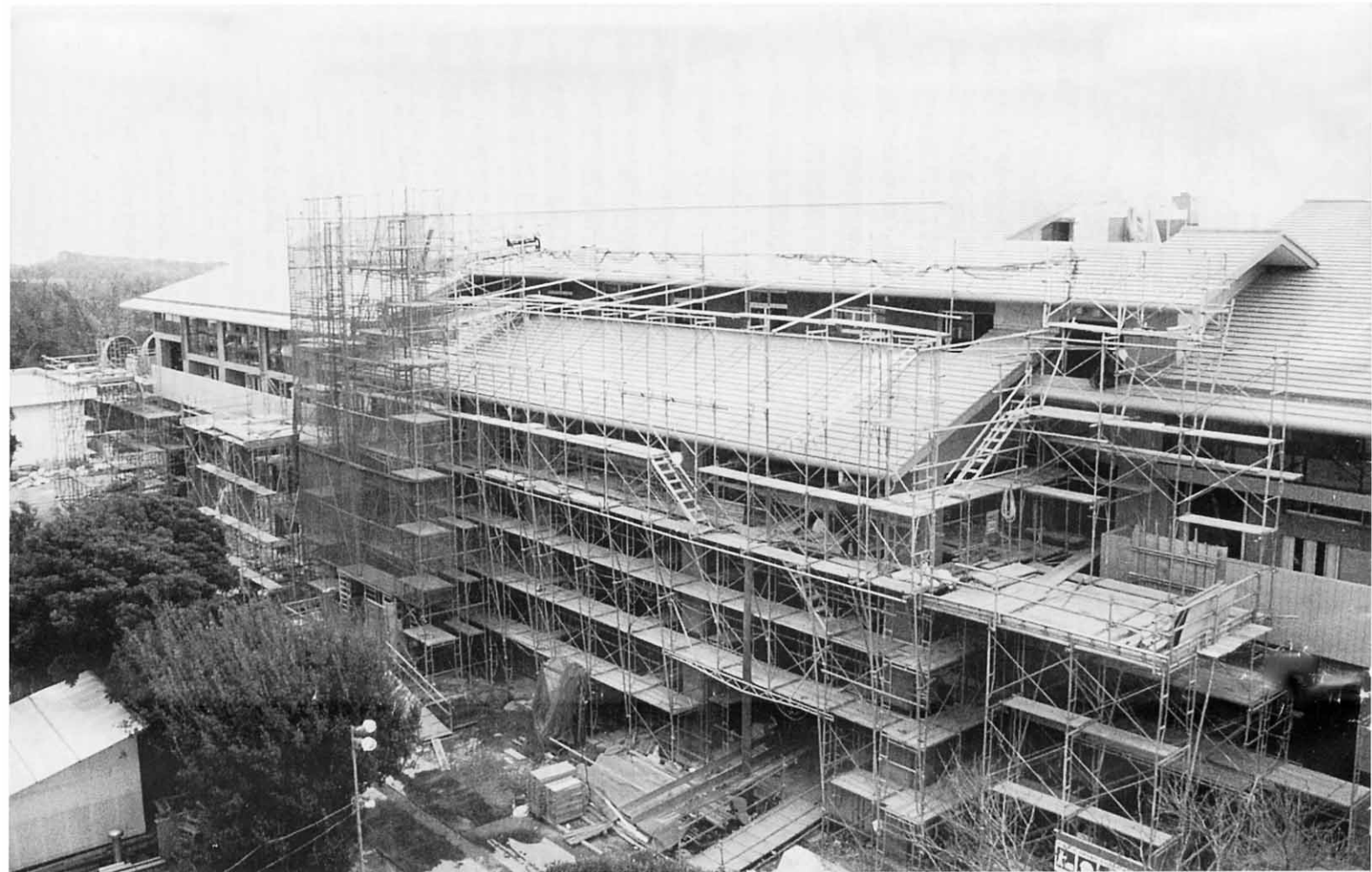
小原台だより

VOL. 4

平成9年1月1日

発行 防衛大学校同窓会

印刷 ㈱エイコープリント



完成間近の武道場

目次

会長挨拶	1
平成8年度総会報告	2
事業推進委員会答申骨子	2
五十周年記念事業について	3
平成7年度決算報告	5
平成9年度予算計画	6
防衛大学校校友会について	7
期生会便り	8
平成8年度同窓会行事	13
おしらせ	13
同窓会会則	14



ご挨拶

防衛大学校同窓会会長

小西 岑 生

新年おめでとうございます。

昨年四月、中尾会長から同窓会会長を引継ぎました。歴代会長にはそれぞれに立派な方が就任されており、私などは場違いの気もしますが皆さんの協力を得ながら精一杯努力する所存でございますので宜しくお願い致します。

同窓会も今年第四十一期生を加えて会員数は一万八千名を超えることとなりますが、一方その内の三十%以上が自衛隊員以外の会員で占めることとなり年齢の幅も益々拡大しております。

このような会の構成の変化に対応し、将来の、姿を描きつつ更なる発展を図るため、「将来方向検討委員会」続いて「事業推進委員会」が設置され、計三年間に亘り多様な検討がなされて参りましたが、昨年その成果の答申を受け、十一月の総会において答申に基づく会則の改正が承認されました。新しい会則は別掲の

とおりですが、従来と異なる主要な

点は次のとおりです。第一点は、本部を東京に移し理事を中心とする運営体制に移行することです。同窓生にとつて原点である小原台に本部を維持すべしとの声もありますが、各年代へのアンケート調査に基づく委員会の答申を尊重し、東京へ移転することとしました。ただし、当面は事務局を東京と防大内の二ヶ所に置いて業務を分担しつつ体制の確立を図ります。また、従来制度が有効に機能していなかった理事制度を充実して同窓会の運営中心とし、代議員会（評議員会を改称）において全てを決定する仕組みに改められます。このため、今まで総会で承認を求めていた事項は総会において報告することとなります。このことにも異論はありませんでしたが、各期、各支部を代表する代議員の数が総会出席者を上回る現状をも考慮し円滑な運営を図るために改正を提案しました。今後総会

は報告の場となりますが、そこでの出席者からのご意見が理事会の検討材料になることは当然であります。

第二点は、支部制度の充実です。

北海道、東北、東部、中部、西部並びに沖縄に地域支部を設け、会員は全ていずれかの支部に所属することとなります。今までは各都道府県に支部を置くことになっていましたが実体は各基地単位に支部があり、このため自衛隊員以外の会員は所属すべき支部がないという状態でした。また、支部活動を活性化するために、必要な条件を整えいろいろなタイプの支部が発足できるように細則を改正することが委員会において検討されており、期生会とは別に、同窓生としての絆が深まり人の輪が広がることを期待しております。なお、期生会との関係について会則では連係を密にするとのみ記述してその位置づけ等には触れていません。期生会の活動は同窓会を支える骨幹ではありますが、縦糸に焦点を当てた同窓会活動とは目的も異なります。

同窓会は今までどおり、学生の間

に期生会の設立を支援して参ります

が期生会は同窓会と対等の存在であると認識しております。

さて、八年度の総会では別の極めて重要な案件である防大五十周年記念に対する同窓会の取り組みについても承認されました。細部は別途七年度の総会で設置が承認され活動を開始した記念事業実行委員会の方から皆さんに連絡されることとなりますが、学校の行う記念行事への協力と同窓会自体が行う事業とに区分して進めることとなります。二〇〇二年の五十周年まではまだ時間の余裕があるように見えますが、実際の準備期間はあと五年しかありません。この件は、母校に対する同窓生の大規模な協力支援であると同時に同窓会の存在意義を示す好機と認識しており、後に顧みて悔いの残らないよう精一杯の努力をしたいと考えております。会則改正に伴う新たな組織体制の確立にしても記念事業への取り組みにしても、同窓会の総力を挙げて推進しなければ成立は難しく、会員各位の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

国防の重責を担って全国各地で、また遠く海外で黙々と任務を遂行して居られる会員の皆さんに心から敬意を表わしますとともに、同窓生各位のご健勝と益々のご活躍を祈念致します。

総会報告

事業推進委員会答申の骨子

はじめに

平成八年三月、事業推進委員会は将来構想検討委員会答申の具体的実行案を策定するために発足致しました。そして鋭意検討を重ね、実行案の精査及びそれに基づく同窓会会則の改正案を策定致しました。

十一月九日の平成八年度総会で、会則改正案は無事議決されました(第14頁) 新同窓会会則参照)ので、ここに委員会答申の骨子を報告致します。

一 委員会の編成

委員長として一期(空)阿部博男、
 副会長二期(海)井川 宏・二期(空)長谷川孝一・三期(陸)井上陽、事務局長二期(陸) 本間敏昭ほか八期までの期生会推薦による二十名で編成

二 事業推進委員会の活動概要

平成八年三月二十七日委員会活動を開始、現在に至るまで五回の定例会議及び十一回の部会を開催

・八月一日、同窓会長・副会長に中間報告

・十月三日、同窓会長・副会長に委員会答申報告

・八月中旬に評議員の意見徴収)
 ・十月二十二日、評議員会にて委員

以上の項目については全て賛成多数により、本総会において承認されました。このうち、決算報告については五頁を、予算については六頁をご覧下さい。特に三、四項目については、これらの項目の議決は活発な議論が行われた結果であることを付け加えて報告いたします。

以下、事業推進委員会の答申の骨子を説明いたしますとともに、続けて四項目の防大創立五十周年記念事業について説明いたします。また今総会で改訂された同窓会会則については本紙最終面から掲載いたしております。

会答申議決

三 実行案策定の考え方

事業推進委員会は、「将来構想検討委員会」答申の基本的事業推進要領を踏まえ、実行可能性を考慮して策定作業を実施

四 実行案の主要策定項目

- (一) 中央組織の整備
- (二) 現行事業の改善
- (三) 財政の見直し

五 実行案の骨子

- (一) 中央組織の整備
- ア 本部の編成
- (二) 本部は「理事会」と「事務局」

で編成し、本部事務局を東京都(現東京分室)に、小原台事務局を防大に設置

- (イ) 本部事務局

- (ロ) 本部及び支部の事務を総轄

小原台関連の事務を担当、小原台支部組織が確立された時点で解消

- (ハ) 各事務局の部員構成

本部事務局員は退職会員、小原台事務局員は防大に勤務する現職会員で構成

- (ニ) 本部事務局の部員

立ち上がり時とりあえず期別管理による。

- (イ) 本部事務局の専従事務員

原則として同窓生でない専従員一名

- ウ 代議員会の設置

従来の評議員会を議決機関とし「代議員会」とする。

- エ 地域支部及び本部直轄支部の設置

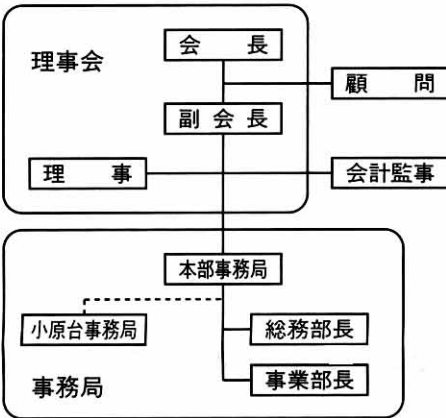
地域支部を北海道、東北、東部、中部、西部及び沖縄の各地域に設置、なお本部直轄支部は会員の届出により設置する。

- (二) 現行事業の改善

現行事業の質的向上を主眼に実行案を作成

- ア 同窓会事業の普及

・会員名簿の作成
 ・機関誌の発行



- ・会員に対する慶弔
- イ 中期的に実施すべき事業の推進

要領

- ・ホームカミングデーの実施
- ・相談窓口の設置等
- ・現職・退職の交流会等の推進
- ・会員の出版への支援

- ウ 各種団体への交友活動
- 同窓会館の代替機能の確保

新体制で引き続き検討

- (三) 財政の見直し
- ア 財務運営の基本的考え方

同窓会の財務は、新たな活動が軌道に乗るまで基本繰越金(約二億五千万円)を概ね維持し年間収支の均衡を図って効率的に運営する。

- イ 収支予測

(ア) 算定項目

- ・新入会員等の会費
- ・基本繰越金の利息
- ・現行事業等に基づく年間支出

- (イ) 現行事業外の新規事業への充当可能額

二百五十万円～五百万円

十未納会費の回収額

- ウ 現行会費制度に基づく自助努力
- 未納会費の回収

- ・新入会費の完全徴収
- ・基本繰越金の有利運用

- エ 現行支出項目・額の見直し
- 会費増収策の導入

将来、事業活動の充実・拡大に伴い新たな財源の必要性が生じた場合には、自衛隊退職時に徴収する「定年時會費」等を骨子とする実行案を策定

おわりに

実行案及び会則改正案作成にあたっては、評議員各位及び会員の皆様から貴重なご意見及びご協力を頂戴し誠に有り難うございました。今後とも会員皆様のご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます。

平成八年十一月

防大同窓会 事業推進委員会

委員長 阿部 博男(二期生空)

**防衛大学校
創立50周年記念事業
実行委員会**

同窓生に対する協力をお願い

私達の母校である防衛大学校は、昭和二十七年(一九五二年)の創立以来五十周年の節目を平成十四年(二〇〇二年)に迎えることになりました。この間防大は、建学の目的、精神を継承しながら着実な歩みを続け、多くの人材を送り出してきました。自衛隊は、精強な実力を目指す長年にわたる努力と最近のPKO等派遣及び大震災対処

等の際の活躍によって、国民の認識と信頼を得るに至りました。この歴史の中で防大卒業生が果たしてきた役割は、自負するに足るものがあると考えます。さらに冷戦後の自衛隊は、国防衛という本来の任務に加え国際社会における多くの任務が求められるようになりました。また、これから防大創立五十周年を迎えるまでの時期は、二十世紀が終わり新しい二十一世紀が始まる節目にもあたります。

このような時に、過去の記憶を新たにその時代に生きた者の誇りを心に刻むとともに将来の更なる発展を期して、防大創立五十周年の記念事業を行うことは真に意義深いものがあります。

防大においては、施設整備、情報システムの整備、資料館の設置、五十年史の編纂等の記念事業を計画しています。施設については、平成八年度から十四年度にかけて学校の中央部地区に本部棟、多目的講堂(記念ホール)、人文科学館、情報館、図書館、給水塔(シンボルタワー)、中央広場等を総合的に整備しようという構想であり、その一部は既に着手されています。

防大同窓会も、この記念事業の意義に鑑み、平成七年度の総会で記念事業実行委員会を設けて積極的にこの事業に取り組むことを決定しました。さらに本年度の総会において、記念事業に関する次のような基本構想が承認され

ました。

《防大五十周年記念事業構想》

一 事業内容

(一) 全般

ア 防大が計画実施する事業への協力を主とし、併せて同窓会独自の記念事業を行う。

イ 記念事業の内容は、防大五十周年記念として社会通念上妥当な性格のものとし、かつ後世に遺す価値のあるものを重点とする。

ウ 記念事業の計画実施にあたっては、二十世紀後半の歴史を踏まえつつ新世紀へ向けての飛躍を理念とする。

(二) 防大が計画実施する事業への協力

ア 中央広場、記念ホール等に相應しいモニュメントの寄贈、設置

(ア) 当代の代表的芸術家の作品を目標とする。

(イ) モニュメントの種類は、記念ホール内に設置するステンドグラス等を第一案とし、状況に応じて中央広場の彫刻像を考慮する。

イ 資料館(顕彰室を含む)の整備に対する支援

資料館の整備にあたっての意見及び資料を提供するとともに、資料の維持に必要な経費の支援を行う。

ウ その他

防大五十年小史（日本文及び英文）並びに記念ビデオの作成に対する経費協力を行う。

(三) 同窓会が計画実施する事業

ア 記念記録（写真集等、記録映画等）の作成

イ 記念講演会（パネルディスカッションを含む）の開催

ウ 記念パーティー（外国留學生の招待を含む）の実施

エ その他（記念マーチの作成等）

二 事業経費

(一) 五十周年記念という独立性の強い事業であることから、これに必要な経費は同窓生の寄付を主とする独立会計を基本として計画、実行する。

(二) 募金要領

ア 目標総額 二億円

所要経費の概算見積りを次のとおりとする。

(ア) モニュメント 一億円

(イ) 資料館整備、維持及び五十年史 五千万円

(ウ) 同窓会記念行事及び記録 五千万円

イ 募金基準 一口 一万円

(ア) 自衛隊OB同窓生 一人 二口以上

(イ) 自衛隊現役同窓生

一人 一口以上

(ウ) 上記以外の同窓生は、同期生に相当する基準による。

(エ) 平成十三年度までにOBになる同窓生

現役時の募金基準によるほか退官時に追加拠金を期待する。

(ウ) 平成十三年度までに入会する同窓生

入会時に自衛隊現役同窓生としての基準による拠金を依頼する。

ウ 募金期間

(ア) 同窓生に対する募金は、平成九年に重点的に行い以後平成十四年まで継続して実施する。

(イ) 状況により同窓生以外に対する協力依頼を、平成十一年以降平成十四年まで実施する。

三 今後の予定

(一) 平成九年一月以降、同窓生全員に対する協力依頼を行う。

(二) 平成九年四月、同窓生に対する募金活動を開始する。

(三) 募金状況を勘案しつつ、平成十年に事業内容（項目）を確定する。

この構想の実現のためには、多くの同窓生の賛同と参加が不可欠であります。同窓会はこれまで防大に対する支援等を行ってまいりましたが、実態としての活動は各同期生会が主体

であり横のつながりが基本になって

います。今後もこれら同期生会が同窓会活動の中核になるものと考えられますが、この五十周年記念事業にあたっては、各期生会の力を結集し

同窓会全体が縦組織としての力を発揮する必要があります。またこのこと

によって、防大同窓会が同窓生としての精神的な結合集団から具体的な事業が実行できる組織へと飛躍する

好機にもなるものと考えます。

同窓生各位には、是非ともこの五十周年記念事業の意義と趣旨にご賛同を戴き、積極的な参加をお願いする次第です。平成十四年秋に予定されている防大創立五十周年記念行事

までの期間は約六年間ですが、資金を確保しながら構想を具現化し実行

していくためには、必ずしも十分な時間ではありません。同窓生各位に

は、各期生会あるいは別添の委員会メンバーを通じて事業に関する意見を積極的に寄せて戴くとともに、平成九年四月以降開始予定の募金活動

に対して絶大なご支援の程をお願い致します。

平成八年十一月

防大同窓会

防大創立五十周年記念事業実行委員会

委員長 佐久間 一

委員長 佐久間 一

〈防大創立五十周年記念事業実行委員会〉

〈委員長〉 佐久間 一（一期海 OB）

〈副委員長〉 志方 俊之（二期陸 OB）

石塚 勲（三期空 OB）

〈委員／事務局長〉

宇野 章二（四期陸 OB）

〈委員〉 久保 正佳（三期陸 OB）

馬野 猛彦（四期陸 OB）

桜澤 清志（四期海 OB）

田中 厚彦（四期空 OB）

福地 建夫（五期海 OB）

小泉 進（六期空 OB）

渡辺 正（五期空 OB）

小原台クラブ

石飛 勇次 陸将補

（十期陸 陸幕装備部長）

齋藤 隆 海将補

（十四期海 海幹校副校長）

渡辺 至之 一空佐

（二十期空 統幕五室）

永井 昌弘 二陸佐

（二十五期陸 陸幕人事計画課）

高橋 孝途 二海佐

（二十六期海 海幕運用課）

笠井 秋彦 一空尉

（三十一期空 空幕援護業務課）

〈事務局長補佐〉

長野 耕治 三陸佐

（二十六期陸 陸幹校）

平成7年度 防衛大学校同窓会決算報告

防衛大学校同窓会会計監事
平成8年11月9日(単位:円)

	項 目	予 算	実 績	備 考
取 入	会費(39期生他)	18,750,000	19,533,488	
	預貯金利息	4,360,000	3,438,992	
	広告代	0	464,588	
	雑収入	0	404,000	遺族寄附金他 佐々木弘栄様 (故21N佐々木義人氏ご遺族)
	取 入 計	23,110,000	23,841,068	
支	事業部	7,110,000	6,376,525	
	総務部	4,310,000	4,062,760	
	広報部	4,026,000	2,248,089	
	人事部	0	0	
	経理部	5,500,000	3,757,995	
	将来構想検討委員会活動費	1,000,000	1,000,000	
	小 計		17,445,369	
出	次年度繰越金		6,395,699	財産に繰り入れ
	支 出 計	21,946,000	23,841,068	

平成7年度 予算使用実績(細部)

	科 目	予 算	実 績	備 考
事 業 部	総会費(会場設営費)	1,700,000	1,685,287	
	(通信費)	1,656,000	1,601,555	
	(印刷費)	54,000	261,581	
	期生会支援費(43期生会助成)	100,000	100,000	
	(40期生会助成)	100,000	100,000	
	(各期生会助成)	500,000	453,800	
	校友会対外活動助成費	1,000,000	255,000	
	開校記念祭助成費	2,000,000	1,919,302	
	小 計	7,110,000	6,376,525	
総 務 部	顕彰碑献花式費	600,000	1,049,975	
	慶弔費(弔慰金・供花等)	1,050,000	662,330	
	職員定年退職者記念品費	100,000	174,852	
	事務通信費	20,000	0	
	複写機賃貸費	120,000	118,656	
	電話・FAX維持費	360,000	107,929	
	東京事務所運営費(室賃貸料)	1,200,000	1,200,000	
(維持費)	180,000	180,000		
(事務通信費)	180,000	180,000		
	評議委員会運営費	500,000	389,018	
	小 計	4,310,000	4,062,760	
広 報 部	機関紙発行費(作成・発行)	3,976,000	2,211,889	
	事務通信費	50,000	36,200	
	小 計	4,026,000	2,248,089	
経 理 部	会長運営費	500,000	467,941	
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	
	事務費	300,000	105,168	
	通信費	350,000	61,224	
	交通費	150,000	2,680	
	会議費	200,000	504,963	
	予備費	2,000,000	616,019	防大公開講座協賛金及び名簿関係費等
	小 計	5,500,000	3,757,995	
委 員 会	将来構想検討委員会活動費	1,000,000	1,000,000	
	小 計	1,000,000	1,000,000	
	合 計	21,946,000	17,445,369	

平成9年度 防衛大学校同窓会予算

防衛大学校同窓会経理部
平成8年11月9日(単位:円)

	項 目	金 額	備 考
収 入	会 費 (41期生)	22,485,000	59,800×376 (総員 418名の90%)
	預貯金利息	1,416,000	
	広 告 代	未 定	
	収 入 計	23,901,000	
支 出	事 業 部	7,200,000	
	総 務 部	3,050,000	
	広 報 部	3,850,000	
	人 事 部	10,000	
	経 理 部	6,700,000	
	委員会活動費防大50周年委員会	1,500,000	
	小 計	22,310,000	
	剰 余 金	1,591,000	
	支 出 計	23,901,000	

平成9年度 予算支出計画 (細部)

	科 目	予 算	8年度予算	8年度比	備 考
事 業 部	総会費 (会場設営費)	1,800,000	1,800,000		
	(通信費)	1,600,000	1,560,000	+40,000	
	(印刷費)	100,000	130,000	-30,000	
	期生会支援費 (45期生会助成)	100,000	100,000		
	(41期生会助成)	100,000	100,000		
	(各期生会助成)	500,000	500,000		
	校友会対外活動助成費	1,000,000	800,000	+200,000	
	開校記念祭助成費	2,000,000	2,000,000		
	小 計	7,200,000	6,990,000	+210,000	組織改編後は新事業部に移行
総 務 部	顕彰碑献花式費	600,000	600,000		
	慶弔費 (弔慰金)	700,000	700,000		
	(供花)	350,000	350,000		
	職員定年退職者記念品費	100,000	100,000		
	事務通信費	20,000	20,000		
	複写機賃貸料	120,000	120,000		
	電話・FAX維持費	360,000	150,000	+210,000	
小原台事務室運営費	300,000	360,000	-60,000	東京分室分を転用	
	評議委員会運営費	500,000	500,000		
	小 計	3,050,000	2,900,000	+150,000	組織改編後は新総務部に移行
広 報 部	機関紙発行費 (作成)	800,000	800,000		
	(発送)	3,000,000	3,176,000	-176,000	
	事務通信費	50,000	50,000		
	小 計	3,850,000	4,026,000	-176,000	組織改編後は新総務部に移行
人 事 部	事務通信費	10,000	0		
	小 計	10,000	0	+10,000	
経 理 部	会長運営費	500,000	500,000		東京分室分を転用
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000		
	本部事務局室賃貸料	1,200,000	1,200,000		
	事務費	200,000	200,000		
	通信費	200,000	200,000		
	交通費	100,000	100,000		
	会議費	500,000	250,000	+250,000	
	予備費	2,000,000	1,500,000	+500,000	
	小 計	6,700,000	5,950,000	+750,000	組織改編後は新総務部に移行
委 員 会	委員会活動費(事業推進委員会)	0	500,000	-500,000	
	(50周年記念事業委員会)	1,500,000	500,000	+1,000,000	
	小 計	1,500,000	1,000,000	+500,000	
	合 計	22,310,000	20,866,000	+1,444,000	

平成8年度運動系校友会活動結果及び部員数状況

部 名	全日本クラス	関東クラス	そ の 他	部員数 男, 女
短艇委員会	全日本カッター競技会 優勝	関東カッター新人戦 優勝		79
バスケットボール部(男子)		関東学生リーグ 13位/6部	神奈川リーグ 3位/2部	39
バスケットボール部(女子)			神奈川トーナメント10位	, 8
柔道部	全自衛隊大会 優勝	関東学生柔道優勝大会 Best 8		32, 1
ラグビー部		関東学生2部リーグ7位/8校 降格		164, 1
サッカー部			神奈川学生上位リーグ4位/7校	49, 1
剣道部	全日本学生選手権大会出場 初段以下の部 優勝 藤本 2位 水品	関東女子学生優勝大会 13位 関東理工系学生大会 優勝 村西		36, 6
空手道部	全国国公立学生選手権大会 女子 準優勝	関東学生リーグ2部優勝/6校 1部昇格	神奈川県選手権男子団体2位 有段の部 個人 古閑 優勝	46, 4
バレーボール部(男子)		関東学生7部 8位/8校	神奈川リーグ2部 優勝 1部昇格	27
バレーボール部(女子)		関東学生13部A 1位/4校	神奈川大学リーグ2部6位	9
卓球部		関東学生リーグ 5部 1位/6校	神奈川リーグ3位/4校	20, 1
陸上競技部	全日本学生選手権800m 優勝 和泉 自衛隊陸上競技選手権 800m 1位, 400m 1位, 1500m(女子) 1位	関東理工系 総合4位/50校 関東学生新人 800m 3位 榑木	神奈川選手権大会 富士登山駅伝参加	59, 2
硬式庭球部		関東学生リーグ 1位/4部	神奈川大学春季リーグ2部 1位	46, 8
硬式野球部			神奈川リーグ 1位/2部	27
射撃部	全日本学生選手権 P60 中村 優勝/200人 新人戦大会 総合8位 AR60 古川 15位/300人	関東学生ライフル選手権大会 総合7位/2部		17, 2
水泳部		関東リーグ水球 3位/4校 8部 東部国公立競泳 総合6位	東部国公立水泳大会 女子200m自由形 1位 川口 女子50m自由形 1位 平木 男子400m自由形 2位 相馬	35, 3
ハンドボール部		関東学生リーグ 1位/6部	韓国夏合宿	31
アメリカンフットボール部		関東学生リーグ2部A 7位/8校 エリアリーグ降格		93, 1
ヨット部(クルーザー)	全日本外洋帆走連盟レース2位		世界選手権出場(フランス)	14, 2
ヨット部(小型)		関東学生A 470級 25位/25校 スナイプ級 17位/19校	神奈川5大学戦 5位/5校	29, 2
銃剣道部	全国並北陸大会 団体優勝 全日本学生大会 優勝 藤本 2位 水品			35, 0
ソフトテニス部		関東学生リーグ 2位/10部	神奈川選手権W Best 8	41, 6
ボクシング部	第1回全国女子ボクシングスパーリング大会出場	関東学生トーナメント3部 3位/8校	神奈川国体予選L級 優勝 古味	36, 1
レスリング部		東日本学生リーグ2部A 5位/7校		27
ボート部	全日本選手権	関東新人戦	5大学レガッタ	16, 1
フィールドホッケー部(男子)		関東学生2部リーグ 6位		36
フィールドホッケー部(女子)		関東学生2部リーグ 8位 3部降格		11
ワンダーフォーゲル部			北海道夏合宿	22
パラシュート部	全日本選手権(JRの部) 個人2位 古賀	グリーンズカップ 個人2位 三谷		18, 2
準硬式野球部			神奈川6大学リーグ 4位	50
合気道部	全国学生演武大会		オーストラリア夏合宿	36, 6
体操部		関東理工系選手権 総合5位/8校		11, 2
弓道部		南関東トーナメント 団体優勝 南関東リーグ戦 男1部4位, 女2部2位	神奈川県男子新人戦 3位	36, 9
少林寺拳法部	全日本学生大会 団体演武 優秀 段外組演武 最優秀	関東学生大会 団体演武 最優秀		51, 2
フェンシング部		関東国公立戦 サープルの部 準優勝		21, 2
ウェイトリフティング部			神奈川新進大会 64kg級 1位 黄倉 59kg級 1位 磯貝	23
相撲部	全国国公立大学対抗新人戦 3位/15校 全国学生選手権Cリーグ 3位	関東学生大会Cリーグ 優勝	東日本学生相撲体重別選手権 個人60kg以下級 準優勝 渋谷(2年連続)	19
バドミントン部(男子)		関東学生リーグ5部 5位/7校		26
バドミントン部(女子)		関東学生リーグ6部 2位/8校		, 7
自動車部				15
居合道部	全日本居合道段別大会 Best 16			20, 4
グライダー部	久住山岳滑翔大会 2位 秋山			38, 2
吹奏楽部		日本海洋少年団バレード	定期演奏会	30, 3
儀仗隊	自衛隊音楽祭参加	下総海上ドリル参加	神奈川自衛隊音楽祭参加	56, 8

期生会だより

二期生会便り

会長 松崎 充宏

私達二期生は昭和二十九年に久里浜の保安大学校に入校して以来、友情を育み、本年で早くも四十二年の歳月が経ちました。同期としては誠に残念なことではありますが、これまでに殉職者四名を含む計三十一名の友を失い、現在は陸上百九十名、海上八十三名、航空五十八名の計三百三十一名となっております。

期生会の運営は、平成六年度の総会で改正承認された会則に基づき陸上、海上、航空の合同を基本とした全国組織を確立し、運営の円滑を図るための陸上、海上、航空の支部と地方の活動としての北海道、東北、関東、中部及び九州の各地方支部を置いております。

名簿は新たに地方支部区分で作成し平成六年十一月に配布しましたが、年度の継続的修正を実施することにし、また緊急時は電話による迅速な連絡網も確立していますので、会員諸兄には何か変更があれば至急連絡下さるようお願いいたします。

活動状況であります、期生会の年

度総会は毎年十一月二十二日、いい夫婦の日を選んで同伴参加を呼びかけており、例年一三〇〜一五〇名が集つて旧交を暖め親睦を図っております。地区支部の年度総会（関東は全体の総会と兼ねる）も実施されており、特に中部は活動に積極的であります。関東支部は二本会と称し毎月第二木曜日に月例昼食会を行い、毎回四〇〜六〇名集つて賑やかに談笑しています。今では参加する程に親交を深めており、この日を待ち遠しく感じる友が多い状況です。

趣味の会については、関東支部を紹介しますと、ゴルフは陸上支部（二球会）が月一回、各四〜七組、海上支部（球遊会）は年四回、幹候校九期会のメンバーで四〜五組、航空支部（球飛会）は年四回、五組程度で行っています。テニスは二〜三ヶ月おきに陸海空合同で六〜十六名参加して実施しています。その他の趣味の会もあり、同期生の夫人方も参加して随時行っております。

思い出こしますと、期生会は防大入校二十五周年を記念して小原台で家族一緒に折、記念として母校に吉田総理が揮毫され

た「治に居て乱を忘れず」の文字を刻んだ石碑を寄贈しましたが、今では同期生にとり遠き日の良き思い出になっています。

役員一同は折折合を開いては同期のために何かできないかと思案しております。期生会としましては防大の発展を願いつつ、同窓会を支え同窓会の事業推進に寄与できることを願っています。同期会は陸海空の諸兄が集いのできるだけ参加して語り合うことにより、様々の知恵が湧き親睦も一層深まるものと思われまますので益々の御協力を宜しく願ひいたします。

第八期生会便り

会長 久留島昭彦

第八期生は、昭和三十五年入校以来、今年で三十六周年を迎えます。

入校当時は、「自衛隊はいずれは新国軍となる。」というような故吉田茂元総理のお話に、将来の夢を描いたこともありましたが、激動の六十年・七十年安保、冷戦のピークとしての八十年危機、そして九十年のソ連の崩壊等を経て、政治は敢えて火中の栗を拾わぬまま、自衛隊は本来あるべき姿とは違つたところに定着してしまつた感の強い昨今です。我々第八期生は、昭和三十五年四月、五百十一名が入校し、昭和三十九年三月、四百六十六名が卒業したことになりますが、今日に至



SHI
Sumitomo Heavy Industries

針路は「海への夢とあこがれ」へ。

日本丸、海王丸に続く、住友重機械建造の3隻目の帆船「あこがれ」。
たくさんの夢や希望やあこがれを乗せて、世界の海へと航海を続けています。
大阪市セイル・トレーニング・シップ「あこがれ」

住友重機械工業株式会社

本社：〒141 東京都品川区北品川5-9-11(住友重機械ビル) TEL(03)5480-8000
大阪支社：〒541 大阪市中央区北浜4-5-33(住友ビル) TEL(06)223-7111

るまでに、二名の殉職者を含み十八名が他界し、また、中途退職又は定年退職により制服を脱いだものも逐次増加し、平成八年十月一日現在では、現職会員は卒業人員の約三分の一の百四十五名を残すばかりとなりました。

これらの現職会員のほとんども、ここ二年ほどの間にすべて制服を脱ぎ、第八期生会も新たな時代を迎えることとなります。このため、平成六年度に改正した会則で、終身会費制に移行することを定め、将来の会の経済基盤を確立しようとしているところであります。

第八期生会の運営体制は、会長を陸上・海上・航空で一年ごとに持ち回りとし、会長を補佐する通常六名の本部幹事（陸上・海上・航空・OB・企画・会計各担当）をもって会務を運営し、第八期生会にちなみ毎年八月に行う総会・懇親会、毎年一回の名簿の発行その他必要の都度の慶弔等を実施してまいります。

現在の同期生の概略の地域分布は、関東周辺の約三百名を筆頭に、九州に約五十名、中部、近畿、中国・四国にそれぞれ約二十名、北海道、東北にそれぞれ約十名という状況ですが、最近では、それぞれの地域ごとに懇親会、ゴルフコンペ、ツアーなど、地域の特性に合わせた活動を始めたところもあり、退官後の同期生の絆を大切にしていこうという気運が盛り上がりつつあ

るところです。

このような情勢を踏まえて、本部としては、現職会員がいなくなった時点で以降の第八期生会の在り方を模索し、準備しながら、当面はその時に備えて終身会費の完納を目標として基盤作りを重点にし、また、地域ごとの活動機運を大切にしていきたいと思いますと考えております。

防大九期生会便り

九期生会長 藤田 幸生

防大九期生会は、昭和三六年四月に結成以来、三五年になる。この間、活動はあまり活発ではなかった。会長さえ、はつきりしていなかった程である。しかしながら、このことは、九期生会会員の同期意識の強さとは、別のよう

に感じている。小原台における四年間、クラブ活動等にあまりにも熱中し過ぎた余り、期生会としてまとまるきっかけを失ってしまったこと、更に、卒業後の各候補生学校で、一般大学等他の出身者との絆を重視し、陸、海、空別に、それぞれ彼等を含めたクラス会をつくり、それらをより大切にしてきたことは事実である。「防大の期生会は、どこでも何時でもできる」という意識がどこかにあったように思う。おかげで、各自衛隊の防大九期相当のクラス会は、皆仲が良くまとまっている。仕

事も含め、先輩達からも、「君達のクラスは、気持ちの良いクラスだ。」と言われるようになっていく。我がクラスは、陸、海、空の各クラス会の会長がよく交代した。「今、そちらは誰が会長か？」とよく質問したものである。このことも、防大九期生会としてまとまった活動ができなかった理由のひとつであろう。最近、同期生が、次々と無事任務を全うして、定年で退官してゆく。OBとして、民の立場で訪ねてくる機会が多いが、その時には特に、防大の同期生を意識する。同期生が、官と民の立場で働くことができる期間は、すぐ終わってしまうだろう。やがてあと数年で、現役は居なくなる。それまでの間に期生会として今まで活動が少なかった分を取り戻す意味においても、防大九期生会を、しっかりとした態勢に整えていきたいと思います。期生会の活動期間は、まだまだ先が長いから……。

一四期生だより

一四期生会長 齋藤 陸

小原台を卒業して早二十七年が過ぎようとしています。まったく夢のごとく過ぎ去ってしまったというのが実感ではないでしょうか。我々が小原台在学中はまさに学生運動真っ盛り。自衛隊のPKO参加などとてもない話、品川駅構内での投石、火炎瓶の飛び交う中で制服に身を包み右往左往したの



C&C for Human Potential

いいコミュニケーションが
この星を変えてゆく。

NEC

がつい昨日のように思えます。

戦後の「ベビーブーマー」として、常に世間様から問題を起す世代として「悪態」を言われてきた世代もすでに人生の節目に差し掛かっています。職場においては中間管理職として、上司と部下に気を使い、家庭においての安らぎは、物言わぬ「犬か、猫」(人によって植物から鉱物に転換しているひともいると思いますが?)といった状況であることは想像に堅く無いでしょう。

昨年「新防衛大綱」が制定されましたが、その議論の過程において、三幕防衛課長(陸・渡辺 空・吉田 海・齋藤)の酒の席での話題、「運悪く、揃いも揃って我々一四期の防衛課長が、いやな役割を背負ってしまったなど、これも「団塊の世代」が世間様にご迷惑をかけてきた宿命か」とボヤクことしきり。それでも「お互いに足を引っ張り合い(?)」、時に「大同団結」なんとかまとめ上げることができました。これも一四期の団結のなせる技かと自己満足している今日この頃であります。さて、防大は平成一四年には創立五十周年を迎えます。我々にとって防大とは?。卒業後も、余りにも職場が一緒なため、母校に対する思い入れが薄くなっていくのではないのでしょうか、もしかして空気のようなものなのかもしれません。この機会にもう一度母校

に思いをめぐらせ、そして、二十一世紀に向けて自衛隊の舵取りを、同期一致団結し頑張りましょう。

(追伸)

私、五十周年記念行事実行委員会おける、十一期〜十五期までの取りまとめ責任者に指定されました、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

十五期生会便り

期生会長 永岩 俊道

我々十五期生が防大を卒業したのは昭和四十六年のことです。当時は沖縄はまだ米国防領下であり、ベトナム戦争、中ソ武力衝突、ソ連軍のチェコ進入と、まさに冷戦最真中であつたことを思い出します。

それから二十五年、安全保障環境は実に大きく変わりました。沖縄の米軍基地に係る議論は御承知のとおりです。陸自を主体としたPKO部隊はカンプジア、モザンビーク、ルワンダ、ゴラン高原で活躍し、自衛艦隊はロシアや韓国の港に親善寄港し、政府専用機はほとんど毎月国賓等をお乗せして世界中を飛び回る時代になりました。自衛隊本来の任務、役割についての国民の期待の高まりはもちろんのことですが、卒業当時とは諸々隔世の感があります。さて、十五期生会ですが、本部を檢

町駐屯地におき、各陸海空毎の分会により構成されています。統合の会長は、会則により各分会長の互選ということになっていますが、申し合わせにより、統幕議長と同じ制服の分会長が自動的に就任するという事で、現在は空が会長に就いています。

防大卒業時、陸・海・空あわせて四百六十二名(陸二百五十一名、海九十三名、空百十八名)いた会員のうち、現在、自衛隊で勤務しているものは三百四十七名(陸百九十一名、海七十二名、空八十四名)です。残念ながら、殉職・病死等をあわせ十四名(陸二名、海四名、空八名)が物故しています。自衛隊以外で活躍している同期生は百一名(陸五十八名、海十七名、空二十六名)といった状況です。

事態対応型でよく纏まっていると評される十五期生ですが、いまのところ、分会ごとの期生会活動が主体であり、陸海空統合しての活動はやや不調かもしれないかもしれません。しかし、統合重視の機運もさることながら、我々十五期生も、自衛隊生活残すところ十年弱、退官すればなおさら同期の結束が大切になるでしょう。その時をにらんで更に結束を高める諸活動が必要かと思えます。さて、その一つとして今年度中に卒業二十五周年統合懇親会を開催するというのは如何でしょうか。同期諸兄の積極的な賛同をお願いします。

技術の日立 HITACHI



きっと、もつと、すてきな夢を咲かせます。

Interface

株式会社日立製作所 公共営業本部
〒101-10 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 電話(03)3258-1111(大代)

いざという時、困った時、何はさておき遠慮なく頼れるのが同期生。今後とも同期生の繋がりは大事にしていきたいと思えます。

平成八年十一月一日

統合十五期生会役員名簿

○ 統合担当 航 空

(八年三月二十五日以降)

・ 会長 永岩 俊道 空幕

・ 副会長 藤根 順三 空幕

・ 装備部整備課長 四五一

・ 総務 浅野 明照 空幕

・ 人事部人事計画課長 三〇三二

・会計 安宅 耕一 空暮

技術部技術課長…三一一四

(評議員 江口 啓三 統幕学校

教官…八―七五―三三五六

○陸上

・会長 林 直人 陸幕

防衛部運用課長…二五四〇

・総務 兼子 忠 陸幕

装備部需品課糧食班長…二六一三

・会計 太田 保重 陸幕

○海上

・会長 道家 一成 海幕

監理部総務課長…二七九〇

・総務 奥村健一郎 海幕

監理部総務課…三七九八

・会計 (兼) //

三十二期便り

三十二期学生会副会長

榊原 吉典 (防大)

三十二期も卒業して早八年、この間世の中が大きく変貌したように、小原台も随分変わったようです。ですが、図書館の時計台や学生舎の並木たちは、八年前と同様に学生たちの活動を静かに応援してくれているようです。

さて、我々三十二期生会では、期生会会長の退職により、期生会の運営について同期の皆様方に御心配をおかけしたと思いますが、以前と全く変わることなく適正に運営されていること

を、この場をお借りして御報告申し上げます。それどころか、多分どの期よりも少なかったであろう期生会費も、健康な同期の皆様を支えられるとともに、会長の厳正な資金運用の甲斐あって、わずかながらも利増している状況です。

それでは、国の守りとして全国の陸海空の部隊、機関等で爆闘している同期の現況を紹介致します。

陸上便り

陸上責任者 石津 吉康 (陸幹校)

防衛大学校を卒業して早八年。殆どの者が二年前に幹部上級課程を終了し、第一線部隊において中隊長として、或いは、各種学校教官として勤務し、部隊の精強化、後輩育成のため日夜努力しております。また、十数名の者がPKOの勤務を経験し、現在においても数名の者がUNDOFで活躍しております。同期の者をテレビ等で見かける機会も多くなり、国際化の波を肌で感じるようになってまいりました。

しかしながら、忙しいのは勤務だけでなく、指揮幕僚課程や幹部技術課程の受験を控え、正月やゴールデンウィークをも犠牲にし、自己の能力の向上に邁進しています。

このように、卒業八年後というのは、陸上要員にとって、厳しい時期であり、この時期を乗り越えるべく、同

期一丸となって頑張っております。海上便り

海上責任者 本松 伸一 (二術校)

殆どの者がここ数年、中級課程入校の時期となっております。(教育の期間は職種により様々です)艦艇勤務の者は、航海長、砲雷長、船務長等にパイロットは搭乗員から陸上勤務に変わる者が多くなっており、その他では、海幕勤務、海外勤務及びPKO活動等を含め、様々な勤務を各地で経験してきております。

また、結婚した者も大半を占め、

家庭と仕事を両立させ、頑張っております。

航空便り

航空責任者 尾崎 義典 (防大)

私たち三十二期が防大を卒業したのは今から八年前です。かろうじて、ひと昔までは行きませんがそれでもかなり昔のことになりました。私は縁あってこの春から小隊指導教官として、防大に勤務しています。十年前我々は防大三年生として学生舎で共に生活していました。勉学、校友会、学生舎生活、俗に言う防大三本柱。すべてに、とはいえませんが、どれかひとつは今でも胸を張れるものがあるはず。時代は変わりましたが、防大生の本質は今も変わらないと思います。

卒業して八年たち、我々の自衛隊

らくらく創造企業 ヤマト運輸

宅急便、 一步前へ。

たとえば、時間。ただ速い、というだけではなく、喜ばれるお届け時間を考えたい。そこで1988年、働く女性の生活時間を考えた「夜間お届けサービス」、1993年、分単位を争うビジネス界に、明朝10時のお届けをお約束する「宅急便タイムサービス」が誕生。翌日配達という枠を越え、心に「届く」便利を目指して宅急便は進化してきました。「今」に決して満足することのない、宅急便。いつも次の便利、次の快適を求めて前進し続けるのです。今日も——宅急便、一步前へ。

 **宅急便**

における役割も変わりつつあります。ついこの間まで、小隊長や、パイロットならウィングマンだったのに、いつしか、指導者になり、あるものは幕僚として司令部にゆき、ただがむしやらかな若さだけを求められていた頃とはひと味違った、役割を担うようになっていきます。

もうすぐ二十一世紀です。二十一世紀の日本を切り開いてゆくのは我々です。これからも頑張っていきたいと思います。

民間便り

三十二期学生会会長

山下 おみつ（福岡市）

三十二期も卒業してから、八年をすぎました。民間に下った同期は、皆とは言いませんが、元気でやっております。防大の教育に対して学生のときはあまりありがたいという意識がないのですが今になって非常に貴重な体験をしかも国費でさせていただいたということには民間の同期一同、感謝の念でいっぱいです。

あの年頃から、「組織管理」というテーマで悩むと言うことは民間では考えられないことです。いつも、周りの人間に対して「ひとつ次元が高い」考えができる……（思い上がりも多々ありますが……）

さて、我々も同窓会のあり方に対して私見を持つことがあります。高校、

大学とOBといわれる人間は現役に對していろいろと注文を付けたくなるものですが、ほととけば意外とスクスクと育つものをいじりすぎてだめにしてしまうのはわれわれ、OBの悪い癖だと思います。「金だけだして、口は出さない！」三十二期としてはこれが望ましいOBの姿だ考えております。先輩方は如何に！

皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

三十四期学生会便り

期学生会長 佐藤 信知

三十四期学生会のみなさん、お元気で
すか？

我々が小原台を巣立ってはや六年半。なかには研究科の学生や指導教官等で防大に戻った者もいますが、私などは夏季定期訓練で部隊実習に来る学生に会う程度。当時は洗濯の煩わしさも相まって、嫌でたまらなかつた真白い制服も、今では妙に懐かしい気がします。

さて、同期生の近況についてですが、私の乏しい情報収集能力で得たものから、詳細さ、正確さについては充分ではないかもしれませんが、紹介させていただきます。と思っています。

陸上の同期生は、そのほとんどが幹部上級課程を終了し、部隊で運用訓練幹部等として活躍するとともに、指揮

幕僚課程の受験に向け、猛勉強中です。海上の同期生も、艦艇部隊では、航海長、水雷長、砲術長……。航空部隊では、機長……。陸上部隊では、係長、班長……。と肩書きにもようやく「長」の文字がつき、仕事も訓練もおもしろくなってきたところ。です。

航空といえば、F-11、F-15のパイロットのほとんどは編隊長となり、F-4のパイロットも前席への転換を終了。また、各特技はもとより、防大、幹候校そして操縦課程の教官をしている者、整備、高射から施設や人事へ職種転換をした者と、それぞれの分野で活躍をしています。

民間企業に就職した同期生は、未だバブルの影響が残り、苦勞している者が多いようです。

期学生会の私が言うのも何ですが、三十四期生会の活動は決して活発ではありません。会員を掌握するための住所管理にしても、平成五年に往復はがきを使って調査したにも係わらず、返答率三十パーセントを割り、頓挫したままの状態です。私もプロジェクトチームを結成し、徹底した住所管理を行うとともに、卒業十周年である西暦二千年には、記念パーティーが開催できるような努力していく所存ですので、会員のみなさんご協力をよろしくお願いたします。

総合技術力と
高品質保証体制で
お応えする

島津の航空機器

航空電子機器 / 空気調和機器 / 油圧・燃料・滑油機器
作動機器 / 操縦機構機器 / ガスタービン動力機器 / 地上支援器材

SHIMADZU
Solutions for Science
since 1875

T4用ヘッドアップディスプレイ



⊕ 島津製作所

本社 京都市中京区西/京桑原町1
航空機器事業部 (075) 823-1308

お問合せはもよりの営業所へ

●東 京 3219-5850 ●大 阪 373-6632
●名古屋 565-7571 ●福 岡 271-0334

防衛大学校同窓会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、防衛大学校同窓会と称する。

(本部及び支部)

第2条 本会に本部と支部をおく。

2 本部は、東京都におき、理事会と事務局で構成する。

3 支部は、北海道、東北、東部、中部、西部並びに沖縄の各地域支部と会員の届け出による本部直轄支部とし、その構成及び運営要領等は細則による。

第2章 目的及び事業・活動

(目 的)

第3条 本会は、会員相互の親睦、母校の発展及び社会的活動に寄与することを目的とする。

(事業及び活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業及び活動を行う。

- (1) 会員相互の親睦・交流に資する事業
- (2) 母校の充実・発展に資する事業の協力と援助
- (3) 防衛意識の向上・普及活動
- (4) 社会的活動に資する事業
- (5) その他前条の目的を達成するために必要と認める事業と活動

第3章 会 員

(種 別)

第5条 会員は、次のとおりとする。

(1) 正会員

防衛大学校本科及び研究科卒業生並びに防衛大学校に学生として在籍した者で、加入の希望が理事会で承認された者

(2) 特別会員

防衛大学校職員のうち、校長、副校長、幹事、部課長、講師以上の教官等の職に在る者及び在った者のうち希望する者並びに防衛大学校同窓会の趣旨に賛同する者で、理事会で承認された者

(会費の納入義務)

第6条 正会員は、第26条に規定する会費を納入するものとする。

(会員の特典)

第7条 会員は、第4条に規定する事業及び活動並びに諸施設の利用等の特典を平等に享受することができる。

第4章 役 員 等

(種 別)

第8条 本会に次の役員及び代議員並びに顧問（以下役員等と云う）をおく。

- (1) 会 長
- (2) 副 会 長
- (3) 理 事
- (4) 会計監事

(員数及び選出)

第9条 前条の役員等は、次の方法で選出する。

- (1) 会長は、正会員のうちから代議員会で1名を選出する。
- (2) 副会長は、正会員のうちから代議員会で2名を選出する。
- (3) 理事は、正会員のうちから代議員会で若干名を選出する。
- (4) 会計監事は、正会員のうちから代議員会で3名を選出する。
- (5) 代議員は、防衛大学校本科各期から3名、研究科各期から1名、各地域支部から1名及び100名以上の会員を有する本部直轄支部から1名の届け出による。
- (6) 顧問は、代議員の推薦により会長が委嘱する。

(職 務)

第10条 役員等の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
- (3) 理事は、会長・副会長を補佐して本会の運営にあたる。
- (4) 会計監事は、本会の財務を随時監査してその結果を代議員会に報告するとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- (5) 代議員は、会員の代表として本会の意思決定に関与する。
- (6) 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、代議員会及び理事会に出席して意見を述べることができる。

(任 期)

第11条 各役員等の任期は2年とし、3選を限度として再任を妨げない。ただし、辞任または欠員補充により選出された者の任期は前任者の残任期間とする。

第5章 機 関

(種 別)

第12条 本会に次の機関をおく。

(1) 代議員会

(2) 理事会

(構成)

第13条 代議員会は、代議員をもって構成する。

2 理事会は、会長、副会長、理事をもって構成する。

(定足数)

第14条 代議員会及び理事会は、その構成員の過半数の出席をもって成立する。ただし、代議員会の出席は委任状によることができる。

(議長)

第15条 代議員会の議長は、代議員会開催時、代議員の互選により選出する。

2 理事会の議長は、会長とする。

(代議員会・理事会の開催)

第16条 会長は、毎年1回定期代議員会を開催する。

2 会長は、次の場合に臨時代議員会を開催する。

(1) 会長が必要と認めた場合

(2) 代議員の3分の1の要請があった場合

3 会長は、随時理事会を招集し、開催する。

(機能)

第17条 代議員会は、会員を代表し、次の事項について決定する。

(1) 会則の改正

(2) 会費の改訂

(3) 事業計画の基本事項

(4) 年度予算及び決算

(5) 財産目録

(6) 会長、副会長、理事、会計監事の選出及び顧問の推薦

(7) その他理事会が必要と認めた事項

2 理事会は、次の事項について決定し、事務局の運営にあたる。

(1) 総会に関する事項

(2) 代議員会で審議する前項の(1)から(5)迄の案

(3) 細則の制定及び改正

(4) その他代議員会に付議すべき議案

(議決)

第18条 前条における議決は、出席者の過半数の賛成による。ただし、可否同数の場合は、議長の決定による。

第6章 委員会

(設置)

第19条 本会の事業及び活動に必要な場合、会長の要請または理事会の決定により正会員をもって構成する各種委員会を設置することができる。

(構成)

第20条 前条の委員会に委員長をおく。

第7章 事務局

(構成及び運営)

第21条 事務局は、事務局長、部長、部員及び職員をもって構成する。

2 事務局長は、理事の中から、部長及び部員は、正会員の中から会長が選出する。

3 事務局の運営要領等は細則による。

第8章 総会

(開催)

第22条 会長は、会員相互の親睦及び意思疎通に資するため、毎年1回定期総会を開催するものとし、開催時期等は理事会が決定する。

2 会長は、代議員会が必要と認めた場合に臨時総会を開催する。

3 総会の議長は、総会開催時、会員の互選により選出する。

(報告)

第23条 理事会は、総会において第17条第1項及びその他会長が必要と認めた事項を報告するものとする。

第9章 会計

(収入)

第24条 収入は、次による。

(1) 会費

(2) 寄付金及びその他の収入

(支出)

第25条 支出は、前条の収入をもってあてる。

(会費)

第26条 会費は、次の2種類とし、その金額及び納入要領等は細則による。

(1) 普通会費：入会時等に納入する会費

(2) 特別会費：大規模事業等の必要時に納入する会費

(会計年度)

第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第10章 雑則

(期生会との関係)

第28条 本会の活動にあたっては、各期生会との連携を密接に行うものとする。

(細則)

第29条 理事会は、本会の運営に必要な細則を定めることができる。

附則

1 本会則は、平成8年11月9日から施行する。

2 防衛大学校同窓会会則(昭和62年11月15日制定)は、平成8年11月9日をもって廃止する。